

砂防メール かごっま

発行：鹿児島県土木部砂防課・(財)鹿児島県建設技術センター

第13号



土砂災害防止の推進に関する住民アンケート調査を実施

県では、土砂災害警戒区域等の指定を進めており、今回このうち旧鹿児島市と薩摩川内市旧東郷町の藤川・烏丸地区の警戒区域内やその近辺を各戸訪問し、土砂災害防止の推進に関する住民アンケート調査を行いました。

アンケート調査は、大雨時の住民の行動や土砂災害警戒区域・土砂災害警戒情報などについて聞き取りを行い、土砂災害に関する住民の意識を把握することを目的としていますが、併せて各戸訪問時に下記の説明資料等により大雨時等の土砂災害に対する注意喚起も行っており、いずれも今後の土砂災害防止の一助となることと思います。

「土砂災害防止の推進」に関するアンケート調査にご協力をお願いします

〇調査の目的及び概要

旧鹿児島市内では約2,400箇所の土砂災害危険箇所が存在しており、台風や集中豪雨などの影響で土砂災害が発生し、市民生活に影響を及ぼしています。

このような土砂災害から皆さんの生活を守るためには、一人ひとりが土砂災害に関する知識を身につけ、早期避難に努めていただくことが必要です。

今回のアンケート調査は、皆様方の土砂災害に関する意識の把握とともに、土砂災害に関する注意喚起を行なうことにより、早期避難に役立てていただくことを目的としています。

〇調査員は恐ろしい身元保護を確保しています。

〇アンケート調査状況

〇お問い合わせ先

〇鹿児島県 県庁 砂防課 土砂災害防止推進班
 電話番号 代表 099 (236) 2111 (内線2364) 直通 : 099 (236) 3616

〇委託業者 NPO法人鹿児島県防災ボランティア協会
 電話番号 代表 099 (127) 4158

アンケートへの協力依頼リーフレット
鹿児島市広報誌等に掲載



アンケートの実施状況

鹿児島県における近年の土砂災害

昭和49年7月 藤川 げり崩れ災害(鹿児島市)

平成9年7月 野原川 土石流災害(出水市)

平成8年6月 電水 土石流災害(鹿児島市)

平成19年7月 二川 土石流災害(出水市)

住民への説明資料
土砂災害発生事例や避難勧告等により人的災害を免れた事例を紹介したリーフレット

土砂災害警戒情報が活かされた事例

垂水市 自主避難で難を逃れた事例

土砂災害警戒情報の説明やインターネットで配信している土砂災害発生予測情報システムを紹介したリーフレット

土砂災害警戒情報の説明やインターネットで配信している土砂災害発生予測情報システムを紹介したリーフレット

土砂災害警戒情報の説明やインターネットで配信している土砂災害発生予測情報システムを紹介したリーフレット

土砂災害警戒情報とは？

大雨により土砂災害が発生するおそれが高まった時に、県と気象台が共同で発表する新報です。住民の自主避難や市町村が安全する避難勧告等の判断材料として役立てていただくことを目的としています。

土砂災害警戒情報の発表

市町村が行う防災活動や避難勧告等の判断を支援

土砂災害警戒情報の発表タイミングの例

土砂災害発生予測情報システムを活用しています

みんなで防ごう土砂災害

平成20年度土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文コンクール

鹿児島県と国土交通省では、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、その一環として次代を担う小中学生を対象に「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文コンクール」を実施しています。平成20年は、県下55の小中学校から合計120点の作品の応募があり、部門ごとに計18点を鹿児島県知事表彰入賞作品として選定しました。このうち、各部門最優秀賞に輝いた作品・受賞者と優秀賞に輝いた受賞者を紹介します。

絵画部門



鹿児島県知事賞 最優秀賞
龍郷町立龍瀬小学校 3年 上脇田 瑤

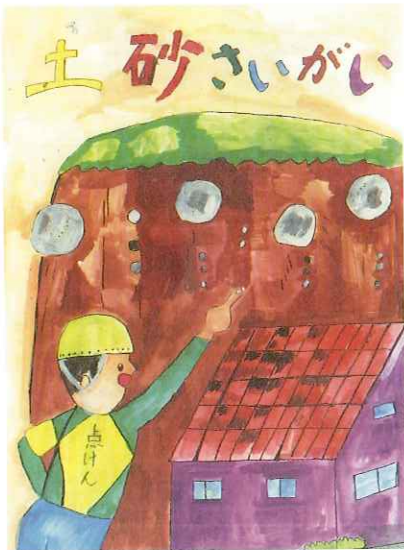


鹿児島県知事賞 最優秀賞
枕崎市立枕崎中学校 2年 永松 冬弥

鹿児島県知事優秀賞

- 鹿屋市立西俣小学校
6年 上園 光
- 出水市立江内小学校
2年 中尾 朱里
- 曾於市立大隅中学校
1年 丸野 郁美
- 長島町立長島中学校
3年 中尾 仁美

ポスター部門



鹿児島県知事賞 最優秀賞
南大隅町立神山小学校 3年 脇 優海



鹿児島県知事賞 最優秀賞
垂水市立垂水中学校 3年 宮崎 純麗

鹿児島県知事優秀賞

- 南大隅町立神山小学校
2年 脇 莉音
- 鹿屋市立笠野原小学校
5年 内山 航太郎
- 大口明光学園中学校
3年 日高 苗
- 西之表市立住吉中学校
2年 藤谷 優子

20年度「土砂災害防止コンクール」

国土交通省 清田君(口之島中)を表彰

土砂災害防止月間の一環として、県が毎年実施している「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文コンクール」の中学生部門で、十勝村立口之島中学校の3年清田君が最優秀賞に輝いた。

田原県知事表彰入賞と国土交通省表彰の事務次官賞を受賞し、県土木部長賞と国土交通省の表彰状を授けられた。清田君は、このコンクールで、父と兄の命を失った経験を生かして、防災意識を高め、関係者から賞状を受け取った。清田君は、このコンクールで、父と兄の命を失った経験を生かして、防災意識を高め、関係者から賞状を受け取った。清田君は、このコンクールで、父と兄の命を失った経験を生かして、防災意識を高め、関係者から賞状を受け取った。

父親とともに表彰状を手にする清田君(左から3人目)＝県土木部長室で



作文部門で事務次官賞と県知事賞に輝いた 清田君(3月2日県庁土木部長室にて)

表彰式の新聞記事

3月3日鹿児島県建設新聞

国土交通省事務次官賞
鹿児島県知事賞 最優秀賞

十島村立口之島中学校 二年 清田 翼

島の優しきを感じた日

その日は夕方から雨だった。僕は母は、祖母の家に来ていた。テレビからは「十島村では雨や風が強くなっているので、外出は避けてください」というニュースが流れている。外はどしゃぶりで。祖母は心配して「今日は、うち泊まってくたさい」といっていいんじやないかな」と言ってくれた。でも、母も僕も「大丈夫。これぐらいの雨だから」と言って、外に出た。帰る途中、雨はどんどん強くなってきた。家の前に停まっていた車が、タイヤまですっぽりと水に浸っていた。でも、その時はまだ「今日の雨はすごいな」と軽い驚きがあるくらいだった。

ところが、家に入ってみると、電気もつかず、水も出ない。初めて「おかしい。いつもの雨と違う。」「と不安になった。すると、玄関から声がする。「今、水が出ない家が多いんだけど、ここは大丈夫?」消防団の方だ。この雨の中、わざわざ心配して来てくださったのだ。消防団の方を見ると何だかホッとしたし、ありがたいと思った。

一緒に水道管の様子を見ることになり、家の裏に行くと驚いた。裏の山の土砂が崩れて、うちの物置が埋まっていたのだ。中の道具はもろろん、ドアも流されてしまった。水の力が土砂を崩し、それが自分の家の一部を押し流してしまっただけで、自然の威力の恐ろしさを思い知らされた。物置と僕の部屋は、すぐ隣だ。もしこれが、僕の部屋だったら・・・しかも寝ている時だったら・・・僕はその土に押しつぶされていたらかもしれない。そう思うと、ぞっとした。

僕は母は、頭が真っ白になっていた。パニック状態だったかもしれない。家が被害に遭ったことや、これからどう行動すればいいかわからないという不安から、二次災害が起きるかもしれないにも関わらず、「まだこの家にいよう」と思っていた。今考えれば、こんな危険な状況にもあのまま居続けるのは危ないかと分かる。でも、あの時はそんなことも分らないくらい、冷静な判断ができた状態だった。だから、消防団の方が「ここは危ないから、避難しよう」と言ってくれたら、それだけでよかったことに、とても感謝している。僕たちは、すぐ近くの会社の二階へ避難させてもらった。そして、雨が次第に小降りになるにつれ、僕も母もだいぶ落ち着きを取り戻した。

翌日、消防団の人たちが土のうや機材を使って、これ以上被害がひどくならないように処置してくださった。その後、僕たちは新しく住む家も決まり、消防団の人たちが中心となってタンスや冷蔵庫などの道具を運ぶの手伝いもした。今回の出来事で、僕は三つのことを考えた。

まず一つ目は、もっと注意して天気予報を見るということだ。今までは、天気予報で警報・注意報が出て、心のどこかで「自分には関係ない」と思っていた。でも、この出来事があってから、警報や注意報はもっと関心をもって見るべきだと考えるようになった。事前の情報にきちんと注意することができれば、早めに避難したり、避難のための準備をしたり、すぐ行動できるからだ。二つ目は、災害が起きるかもしれないという危機感を持つておくことだ。僕たちは、災害を予想もしないでいた。パニックになった。でも、「危険かもしれない」と心構えをし、日頃からいざという時にはどうすると家族で話し合っていたら、冷静な判断ができたかもしれない。三つ目は、人の温かさに対する感謝だ。災害に遭った日、どしゃぶりに関わらず、消防団の方々が心配して見回りに来てくださった。避難の場所を確保してくださった。誘導して下さった。また、僕たちが新しい家に引っ越しをする日、島では母の日のバレーボール大会があった。みんな楽しみにしている行事で、参加する予定だったはずだ。それなのに、僕たちのために皆さんの島の人が手伝いに来てくださった。そして「大変だったね」、「新しい家は学校に近いから、かえって良かったがね。そう、いい風に考えて頑張りなさいね」と励ましてくださった。僕の住む口之島は、百人程の人口だ。だから、どんな時も助け合って生活している。船が入港する時には、朝五時にも関わらず、青年団を中心に荷物運びをする。また、放牧させている牛を移動させる時は、自分のところの牛だけではなく、みんなで助け合って移動させている。地域の行事がある時は積極的に参加するし、助け合い。それが僕たちの島の精神でもある。この災害を通して、僕はよりいっそう、島の人たちの助け合いの精神を知り、感謝した。そして、自分自身も、困っている人がいたら積極的に助けたり、手伝ったりして、恩返しをしたいと思った。

国土交通省砂防部長賞
鹿児島県知事賞 最優秀賞

霧島市立陵南小学校 四年 三好 紗理依

わたしたちができる土砂災害防止

「あの日から十五年か。早いね。」八月六日、その日の朝刊を見て、お母さんがつぶやいていました。大雨がふると、たびたびお母さんが口にする。「あの時は、本当にすごい雨だったのよ。」という言葉を思い出して、わたしも新聞の記事を読んでみました。四十九人の犠牲者が出て、鹿児島市を流れるこうつき川や新川、いなり川がはらんして、多くの被害が出たそうです。記事には、その後の川の様子や、今なおつづくかいしゅう工事について書いてありました。「えっ。十五年たったけど、まだつづいているの。」

わたしは、びびりつづけてしまっている。それだけ、大きな被害であり、かいしゅうには、たくさんのお金がかかることを知りました。川だけのかいしゅうだけではなく、まわりや川の上流までの土地がいっしょに、さまざまなことをしなければならぬことも知りました。

この記事のとりの紙面には、工事中、とつぜんの雨のため水で流された事この記事がのっていました。この夏は、特に、きゅうにふる雨がふってきているような気がしますが、空が真っ暗になったかと思うと、かみなりがなりだし、そして、大きな雷音でザーッと、ふりだします。ピカッ、ゴロゴロ。かみなりが苦手なわたしは、カチンとたたまってしまいます。そして、弟と妹とわたしで、「こわいね。」と、言っていました。

また、七月二十八日の神戸市の川の事は、わたしには、とてもしょうげき的でした。今まで、しずかな川だったのに、少しの間ふった雨で、とつぱう水がおこったのです。予想もつかないスピードでどろ水がおこってきたのです。

夏休みには、川のかんきょう調査で、近くの川や町町の川に行き、ひざまでつかって、いろいろな生物を見つけたりすることがあります。晴れた日の神戸の川は、わたしの入った川よりも浅く、やさしい流れのように見えました。まわりもきれいに整いられ、安全にみえるような川でした。そんな川で、事がおこったのです。

その事をテレビで知ったあと、わたしはすぐに土砂災害防止についてのホームページを見ました。各自自治体でいろいろな防災システムのページがありました。いっほうや注意ほうを出すシステムもありました。

わたしの住む市のホームページもありました。そこには、いつもから住民に心がけてほしいことが書いてありました。雨のふり方に注意を。前ぶれに注意を。きけんか所は知っていますか。ひなん場所は決めていますか。にげ方を知っていますか。これを見てわたしは、いつも自分の住む土地のことを住民がよく知って、いざというとき、どうすればいいかがけることが一番大事だと思いました。

大雨のあと、近くの工事中の道路を見ると、土色の水が川のように流れていました。そして次の日は、何十メートルにもわたって、軽石がずつとところがつていました。このような大雨がふりつづくと、川のせう水もおこり、くずれる土砂も多くなってきました。

鹿児島県はシラスの多い地いきて、雨にも弱い土地です。大雨の日、道路わきのシラスがむき出したがけのそばを通ると、くずれはしないかと少しこわいです。自分の住む土地をよく知り、いつも心がけてきけんを知ることを、わたしたちにも、わたしたちは、自分の住む地球のこともよく考え、今変わっている天こうから意きして行動することも、災害防止につながるのではないかと思います。

鹿児島県知事優秀賞

鹿児島市立吉野小学校6年 木田 夕葉
霧島市立陵南小学校2年 三好 寿理

垂水市立垂水中学校1年 西尾 美里
志布志市立志布志中学校3年 島田 祥吾

土砂災害対策アドバイザー 鹿児島大学理学部 井村准教授

プロフィール
名前: 井村隆介
出身地: 大阪府
専攻: 第四紀地質学



日本列島は、地震をはじめとする地殻変動や火山噴火の繰り返しによって作られたもので、これからも変化し続けていくものです。地球の長い歴史から見れば、現在の日本の社会は、繰り返し起こる地震や噴火のちょっとした間隙に急速に発展したもので、きわめて無防備な状態にあると言えます。私の専門は、自然現象を知り、過去の災害を教訓とすることによって、将来起こりうる災害の防止や減災について考えることです。

鹿児島県では、地球の激しい営みによって作られた地形や地層が過酷な気象条件によって日々変化しています。シラス崩れはその代表的なものです。鹿児島県で発生する土砂災害を自然のプロセスのひとつとしてとらえ、防災に活かすことを日々考えています。

よろしく願いいたします。



現場でのアドバイス(左側が井村准教授)

砂防技術研修会が開催されました

平成21年2月19日県民交流センター中ホールにてNPO法人砂防ボランティア協会主催の「砂防技術研修会」を開催しました。

この研修会は、砂防ボランティア協会のこれまでの活動が評価され、今年度、土砂災害防止に功績のあった団体として、国土交通大臣より表彰を受けた節目にもあたり、会員及び砂防担当者等のさらなる技術研鑽を図ることを目的に催したものです。

上拾石理事長の挨拶の後、国土交通省大隅河川国道事務所の武士俊也所長の来賓挨拶に引き続き、鹿児島大学農学部の地頭菌隆准教授と砂防ボランティア研究所の田畑茂清所長から技術講話が、鹿児島県土木部の三上幸三砂防課長から行政報告があり、約120名の参加者は今後のボランティア活動等に参考にしようと熱心に聞き入っていました。

NPO法人鹿児島砂防ボランティア協会 福元幸一



技術研修会の状況

編集後記(編集長 I・Y)

今年是最初の土砂災害警報情報を何と1月30日に発表しました。本県で発表を始めて5年目、これまでは5月より早い発表はありませんでしたから、大幅な記録更新となりました。

今年の梅雨等に向けた準備のため土俵に上がったか上がらないうちに、いきなり張り手をくらったような驚きでしたが、幸いにも、今年最初の土砂災害発生とはなりません。現在は、出水期に向けて、例年より早く9地区で4月からスタートする土砂災害防止対策連絡調整会、5月12日の市町村自治会館での「土砂災害防止の集い2009」、6月の統一防災訓練などの準備を進めています。

先制された今年が取組が、張り手にも動ぜず、体勢を立て直し、最後は決まり手が「肩透かし」となるよう、そして、「人的被害ゼロ」が更に続くことを願っています。

ご意見・ご感想お寄せ下さい

TEL:099-286-3616 FAX:099-286-5627

E-MAIL: sabou@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島県ホームページ: <http://www.pref.kagoshima.jp/>

“みんなで防ごう土砂災害”